(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

E 3 Plates 1990 C 3 Plates Hope to E				
	事業所番号	3893600035		
法人名 株式会社 悠遊社				
	事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ		
所在地 喜多郡内子町本川2424-19				
	自己評価作成日	平成 25 年 10 月 30 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者一人一人が自分の生活を大切にできるよう、個々の能力に応じできる事を続けてもらっています。

スタッフは共に過ごす姿勢を忘れず、寄り添って一緒に笑い喜び理念の下「もう一つの家族」となるべくがんばっています。

地域との交流の機会を作るよう、紅葉の里まつりに地域の方々によるボランティアは年々増えてきています。地域と共に過ごせるよう、出かける機会や訪問していただける機会を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小田深山に向かう道ののどかな山々に囲まれた静かな環境にあり、開設4年目を迎えた事業所である。住民とのふれあいを大切にしながら、地域に開かれ貢献できる事業所を目指しており、積極的につながりを持つことで、地域の一員として交流を深めている。職員の知識と質の向上のために、外部研修など学べる機会を事業所が確保しており、研修内容は職員全員が把握できるようになっている。今年度は職員の異動や退職が重なったため、事業所と新人職員の業務マニュアルを管理者と職員で作成しており、日々のケアの見直しや再確認にもつながっている。利用者一人ひとりにアルバムを作成し、事業所での生活や行事の様子の写真を年々増やしていき、利用者や家族の楽しみの一つとなっている。

| ▼. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

|2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 〇 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	
	利用者は その時々の状況や要望に応じた柔軟	1. ほぼ全ての利用者が					

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が 介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を 修正することはありません。
- ※用語について
- ●家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。 (他に「家族」に限定する項目がある)
- ●運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の 役職者(経営者と同義)。
- ●職 員=「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- ●チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、 事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名
(コニット名)グループホーム 紅葉の里・おだ
いちょう記入者(管理者)
氏名杉野 千鶴子評価完了日25 年 10 月 28 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

프	<u>— н</u> і			TENDMONIXITIA, AILT TENLERT TO THE
自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.	理念	に基づく運営		
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は施設利用者に対する介護サービスの原点だと思うため、入社時の研修で必ず話し、事務所内にも掲示することで全員の意識を統一している。 来所者にも事業所の理念をわかっていただくために、玄関に掲示しホームの目指す方向を示している。 (外部評価) 家庭的な雰囲気の中で利用者に笑顔で自分らしい生活を続けてほしいという思いで、職員間で話し合い理念を作成している。職員には入社時に理念を説明し、日頃から意識してケアを行えるように、職員一人ひとりが理念の中にある「第二のふるさと」の言葉の意味を理解し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事(クリーンデイ・地区運動会等)には積極的に参加している。今年も、紅葉の里祭りを通して地域の方にたくさん参加してもらっい一緒に楽しんでいる。 (外部評価) 開設して4年目の事業所であるが、行事への参加や小学校との交流、地域住民へ運営推進会議の参加の呼びかけを行うなど積極的に地域とのつながりを深めている。事業所の行事の「紅葉の里まつり」は、にぎやかな出店やボランティアの出し物などが行われ、地域住民の参加協力があり、100人規模の一大イベントとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 内子町グループホーム全体で認知症への理解、グループ ホームへ理解を深めてもらうため毎年、地域の人や家族を 対象とした講演を開いて参加を広く求めている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(自己評価) 定期的に会議を設け、現状及び運営等に関し問題を話し合える場を設けている。スタッフ等にも、会議の内容をミーティングで伝えている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(外部評価) 運営推進会議は自治会長、区長、老人会長、民生委員、町担当者、家族、職員等の参加を得て開催している。会議では事業所の取組みや課題について意見交換を行っている。会議を行事と同時に開催する工夫もしており、家族や地域住民に気軽に事業所に訪問してもらえるように努めている。家族や利用者に職員の名前と顔が分かりやすいように玄関に職員の写真と名前を提示する提案など、会議の参加者から出された意見を反映し、事業所の運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 日頃より、運営やサービスに対し相談アドバイスを得ることが出来る。運営推進会議には必ず出席していただき意見交換ができている。内子町グループホーム連絡会にも参加していただき、行政からの話も聞ける体制となっている。 (外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加し、意見交換を行っているほかに、日常的に連絡や相談を行い、良好な関係が構築できている。今年度から年2回介護相談員の訪問があり、介護相談員の手配をはじめ、地域包括支援センターと連携を取っている。内子町グループホーム連絡会は毎月実施されており、他の事業所と情報交換や研修などを行い交流を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ全員が拘束をしない方針で、勉強会等で同じ意識の元援助を行っている。夜間以外は、玄関の施錠は行っていない。 (外部評価) 事業所の方針で身体拘束をしないケアに取り組んでおり、玄関は手動式で日中は開放している。落ち着きがなく何度も外出しようとする利用者には、職員が付き添い声かけや見守りを行うことで安心できるように努めている。少なくとも年1回は身体拘束の研修を開催し、職員全員が言葉の拘束を含めた身体拘束となる行為と弊害について理解ができるように取り組んでいる。	

_				
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業 所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフは外部研修にも参加し虐待防止について、年間の職員勉強会に組んでおり常日頃から職員同士でも声掛け等言葉による虐待も話せるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それら を活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について、年間の職員勉強会に組んで職員全体で 少しでも理解できるようにしている。 外部研修にも参加し知識の向上に努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結、解約の際は必ず家族と十分時間をとり、不安 や疑問点を尋ね説明を行い理解、納得していただいてい る。また、利用料改定時等は充分時間をとり説明し納得し ていただくようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員並びに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が面会に来られたときや電話連絡の際など、ご意見やご希望及びご不満や不安なことなどをお聞きしたりして、行事に参加していただいて気兼ねなく意見を言える雰囲気を作っています。年に1回は家族会において、一年間の施設の状態やヒアリハット、事故等細かく報告し対策等報告し意見を聞いている。玄関に意見箱を設置し、ご希望や意見を気軽に投書できるようにしてある。 (外部評価) 訪問時に職員から家族に声をかけ、意見や要望を言いやすいように努めている。毎月紅葉だよりと利用者の写真に手紙を添えて送付しており、遠方等でなかなか訪問できない家族にも状況を伝えている。年1回の家族会のほか、事業所のもちつき行事にも参加してもらい家族間の交流も深めている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	り、職員が思ったことを伝えやすい環境づくりをしてい る。会社全体の取組みで、職員の声を会社の代表や幹部職	管理者は研修会に参加し職員の評価の仕方等を学んでおり、個人面談の必要性を感じているため、個人面談等を通して職員一人ひとりの目標の達成状況や課題を明確にしながら、より良いサービスの向上につなげて
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて	員に直接届ける社内アンケートを実施しており、職員の 様々な意見を把握し運営に反映することができるよう努め ている。 (自己評価) 会社は4つの方針(顧客本位・社員重視・独自能力・社会 貢献)を打ち出し職場環境が整える努力をしている。	いくことを期待したい。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 全ての職員が研修に参加できるよう予定し、本人が希望する研修には参加してもらっている。また、事業所内でも研修予定を立てている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 内子町グループホーム連絡会に毎月参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質向上に努めている。	
I	[.安	ひと信頼に向けた関係づくりと支援		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するため の関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用開始する際事前訪問調査を行い、本人の思いや希望・不安に耳を傾け、話し合い不安除去に努めている。出来ないことをどうすれば出来るようになるか、一緒に考え努力している。	

_	一次と0年1月0日						
自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用開始にあたり、家族の思いや希望、不安なことに耳を傾け、その場で一緒に援助の方針を話し合っている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) サービスの利用開始にあたり、本人、家族と十分に話し合いを持ち何が必要かを考えていくようにしている。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 共に暮らしているとの意識の下、一緒に行った作業や家事 に対して感謝の言葉がけを忘れないようにしている。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の時や、月1回のお便り等で本人の状況等を伝えている。訪問・電話等をお願いし、家族との時間がを大切にしている。年2回の、家族交流会には出来るだけ入所者全員の方にどなたか参加していただけるよう声掛けを行っている。				
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 友人がホームの前を通る時、玄関先で過ごしているとしばらく話して帰ったりと交流が続いている。同窓会で日帰り旅行にも参加している。自宅でいた時利用していた訪問介護の、担当ヘルパーに訪問してもらったりしている。 (外部評価) 事業所の近くにある友人の家や昔からの行きつけの商店に出かけたり、手紙のやり取りなど馴染みの場所や人間関係が途切れないように支援している。以前住んでいた地域の灯篭祭りに出かけ昔の知人と話したり、今までの馴染みの関係を継続できる機会を積極的に作っている。				

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え 合えるような支援に努めている	(自己評価) 地元の方が多いため、同級生であったり幼馴染だったりと 昔話で花が咲くことが多い。 入所者同士が良好な関係が築けるよう、声掛けを行い孤立 しない環境を作っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) 他の施設に替わられた方に対しても、お手紙等や訪問していただいた時に現在の状況を聞かさせていただいている。	
I	I. そ	の人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用し、本人の思いを把握するように努めている。また、スタッフミーティング等で本人の思いに気づいたことを話し合えるようにしている。 日々の会話や発した言葉を大切に記録にとどめるようにしている。 (外部評価) 利用者や家族から生活歴やどのような暮らしを望んでいるかを聞き取り確認している。職員全員が把握できるように分かりやすい様式に記入し、毎年追加や見直しを行い職員間で共有している。入居前から晩酌を楽しみにしている利用者には、無理のない範囲で継続できるよう支援している。利用者の希望に応じて、昔からの友人と旅行に出かけられるよう支援している。利用者の思いをできるだけ叶えられるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に訪問調査を行い、センター方式を利用して本人だけでなく家族からも情報を把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の過ごし方を聞き取りだけでなく、実際の生活の中から把握し、本人の生活リズムを大切にしている。状態の変化があれば、その都度柔軟に対応し出来るだけ本人の生活が保てるようにしている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 課題や目標を介護記録の中でも共有し、本人の生活がよりよくなるために定期的なモニタリングを行い担当者会議を行い計画書を作成している。家族には、訪問時や電話等で意見を聞くようにしている。 (外部評価) 1階のユニットは管理者が、2階のユニットは計画作成担当者が利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成している。利用者毎の担当職員が毎月モニタリングを行っている。利用者一人ひとりの毎日の介護記録を介護計画と連動して記入できるよう工夫しており、職員が常に介護計画を意識してケアに取り組めるように努めている。利用者の状態に変化があった場合などは、随時見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) その日の気づきや状態を、本人の介護記録に記録し、職員 間で情報を共有し目標に向けて実践しすることで計画書の 見直しにいかしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状態や環境、家族構成等により通院等を柔軟に対応 している。家族訪問時に、急に外出を思い立ち食事にでっ かけられることもある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 地域行事への参加、地域の子ども達とも交流が持てるようになった。今後も引き続き機会を増やして行きたいと思う。	

	- 放示 「但未の王 6372 - 「一						
自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)			
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら	(自己評価) 入所時に本人、家族と話し合い主治医は今までの医師を希望すればその希望を優先し、かかりつけ医と同様状態を伝え適切な医療が受けれるようにしている。定期的に連携医が往診に来てくれる。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することがでまる。				
		れるように支援している	きる。主に管理者が利用者の受診介助を行い、必要時には 家族も同行している。受診内容は介護記録に記入し職員全 員で共有するようにしている。協力医の往診や週に1回看 護師が訪問し、利用者の様子を把握して健康管理をしてお り、緊急時に適切な対応がとれるように努めている。 (自己評価)				
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	入所者の変化を見逃さないよう職員は気をつけ訪問看護ステーションからの定期的な訪問時に、日々の様子や変化を伝え指示や指導を受けている。何かあるときはその都度連絡を行い、主治医との連携を取ってもらっている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 情報提供票により現状を伝えると共に家族と一緒に問診にも応じている。入院先の相談員や主治医と連絡を取り、家族も交えて情報交換を行い病院との関係を築いている。また、退院後の状況についても相談員に報告している。				
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	とできないことを利用者や家族に説明し理解を得ている。 利用者と家族が事業所での看取りを希望し、医師や家族の	今後、看取り支援の希望が出た場合には、安心して終 末期が迎えられるように医師や看護師、職員との協力 体制を築きながら、職員の知識向上や看取り支援を行			
			協力のもと1名の看取りを経験したことがある。重度化や 状態の変化があった場合には、随時利用者や家族と話し合いながら意向を確認している。	う上での不安を解消できるように、継続して研修や勉強会を開催することを期待したい。			

		1-214		1772=1777=1
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全て の職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に行うよう年間計画を立てて行っている。また、2年 に1回は普通救命講習を受けるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	(自己評価) 災害に備え半年に1回消防署の指導の下避難訓練を行い、地域の自主防災組織に加えていく方向で話し合いにも参加している。 (外部評価) 内子町の地区防災訓練を、事業所を利用して地域住民と一緒に実施している。訓練では2階の利用者の避難誘導の方法など職員同士で実践し、課題や反省点を話し合っている。地域住民が負担に感じないような具体的な役割を決めるなど、災害時の協力体制が構築されている。備蓄品や非常用品を用意している。また、事業所を地域の避難場所として利用できることも町や地域に提案している。	
I	 7. そ	 ・の人らしい暮らしを続けるための日々の支 !	 	
36		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう特に排泄介助や入浴介助時には職員全体で気をつけている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、日常のあらゆる場面で尊厳を傷つけないように、自己決定しやすい丁寧な声かけやケアを行っている。排泄や入浴介助時などは、特に利用者の羞恥心に配慮してさりげない声かけや対応を行っている。職員は利用者に親しみを込めながらも、過度な馴れ合いの言葉づかいにならないように注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いを言葉や態度で示していることを見逃さないようにし、自己決定できるようにしている。誕生日には本人の食べたいものをメニューに取り入れている。	

	1			1
自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している	(自己評価) 入所者のその日の状態等により、個々のペースにあった生活のリズムで過ごして頂けるよう努めているが、業務に流され職員本位の流れになってしまうこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができ るように支援している	(自己評価) その人の好みを把握し、その人らしいおしゃれや身だしなみを大切にしている。入浴の準備や朝の着替えの時、外出の準備の時など本人が着替えを選んだりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日の状態や気分を確認し、個々の力量を見ながらできる事は声掛けして一緒に行っている。誕生日には、好きなものが食べられるようにしている。 (外部評価) 食材を切ったり下ごしらえをしたりするなど、利用者同士がテーブルを囲んで和やかに行っている。献立は管理者が旬の食材を活かしたメニューを考え、利用者の希望も取り入れて職員が調理している。地域祭りの時には郷土料理のうどんを利用者と作り、食べることが楽しみになるような工夫をしている。毎日の献立を「紅葉だより」に掲載しており、家族も確認することができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分量は必ず毎回チェックし1日に必要な 食事量や水分量に気をつけている。また、本人の状態に 合った食事形態を工夫し、食べる楽しみにも気をつけてい る。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、一人一人の状態に合った方法で口腔ケアを行っている。週1回、入歯洗浄剤で洗浄も行っている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを入所当初よりチェックし、本人の行きたいサインを見逃さないようにしてできるだけトイレ誘導し、トイレで排泄することの爽快感を味わってもらえるようにしている。紙パンツ使用の方もできだけ、布パンツに変更していけるよう誘導を心がけている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、その日の体調や状態に配慮しながら、トイレ誘導を行っている。オムツやパット類に頼りすぎず、できるだけ利用者の残存機能を活かしてトイレで気持ち良く排泄してもらうことを大切に考えて支援している。入居時にオムツを使用していた利用者が、排泄パターンに沿ったトイレ誘導を行うことでオムツからパットの使用になった事例があり、最終的には布パンツ着用を目指して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の解消になる工夫を個々状態に合った方法(乳製品・ 牛乳・寝起きに水分摂取等)で行っており、日頃の食事に も食物繊維の多い食品を利用するなどして工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じ た入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の好みの温度や時間を、本人の状態を見ながら出来るだけ希望に添うようにしているが、中々個々の希望に添うことが難しいこともある。 (外部評価) 夏は週3回、冬は週2回を基本として利用者は入浴することができる。毎日入浴の準備をしているため、利用者の毎日の入浴希望にも対応することができる。以前は希望により夕食後に入浴していた利用者がいるなど、できる限り利用者の希望に沿えるように努めている。利用者の状態に合わせて、職員2名体制で介助を行い、安心してゆっくりと入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく 眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠時間に合った生活パターンを守り、睡眠が十分に取れるよう日中の過ごし方も工夫している。日中も本人が自分で休息が取れるようにしている。	

自己	外部	項目	中昨作江	次のステップに向けて期待したい内容
評価	評価	項 目	実践状況	(外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服 薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入所時に疾病と合わせて薬に関しての情報を職員間で共有 し、変更等があった場合は、必ず口頭のみでなく文章にし て申し送るようにしている。	
			(自己評価)	Alexander (Alexander Alexander Alexa
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている	一人一人の生活歴や力を理解し、楽しみを見つけ、できることへの役割を見つけ毎日の生活に張り合いが出るようにしている。また、作った作品等が皆に見ていただけるよう掲示している。また、本人の趣味(カラオケ・オセロ等)の時間が持てるようにしている。	
			1 【(自己評価)	austerati.
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外 に出かけられるよう支援に努めている。ま た、普段は行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の人々と協力 しながら出かけられるように支援している	また、地域の祭りや文化祭など本人の希望を聞いて全員で行かないものは個々の希望を大切にしている。家族と食事やドライブに行かれることもある。花見や紅葉狩り、外食など季節を感じてもらえるよう機会をつっている。 (外部評価) 日頃から事業所の周辺を散歩したり、利用者の希望で近くの商店まで買い物に行くなど外出をしている。季節に合わせて、車いすの利用者も一緒に花見や会食に出かけられるよう支援しており、利用者は楽しみにしている。事業所は自然豊かでのどかな環境にあり、外に出るだけで見慣れた山々の風景を眺めながら気分転換をすることができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを 理解しており、一人ひとりの希望や力に応 じて、お金を所持したり使えるように支援 している	(自己評価) 家族と話し合ってご本人が金銭管理をされている方もいらっしゃるし、ホームのほうでお金を預かり買い物等外出時などに自由に使える機会も作っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をした り、手紙のやり取りができるように支援を している	(自己評価) 本人が希望すれば、家族や知人に自由に電話を掛けたり自分で掛けれない人は援助している。 毎月、ホームのお便りと一緒に娘に手紙を書いたり、年賀 状は本人の能力にあった方法で作成し毎年家族に出している。	

_	版示 礼未の王 37.5 			
自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって 不快や混乱をまねくような刺激(音、光、 色、広さ、温度など)がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下やトイレなど移動に邪魔なものは置かないようにしており、季節に応じ壁を飾るなどして季節感を大事にしている。 全室に温度計、湿度計を設置し室温等には充分配慮している。冬季は、加湿器を全室に配置し乾燥対策もしている。 (外部評価) 大きな窓から太陽光が入り、床や壁などに木材を使用しているため、全体的に明るく温かみのある雰囲気になっている。リビングにはゆったりと座れるソファや畳のスペースがあり、利用者は思い思いの場所でゆっくりとくつろぐことができる。1階と2階のユニット毎の利用者の様子に合わせて、リビングの配置を変えたり、季節によって暑くなりすぎないようにすだれなどを使用する工夫をするなど、温度や湿度にも配慮しながら利用者が居心地良く過ごすことができるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせるよ うな居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや畳スペース、玄関のベンチなど気の あった利用者が思い思いの場所でくつろげるように工夫し ている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族 と相談しながら、使い慣れたものや好みの ものを活かして、本人が居心地よく過ごせ るような工夫をしている	(自己評価) 個々の部屋は、自宅で慣れ親しんだものを持ち込まれており、家族の写真や季節のものを飾るなどして居心地よくしていただいている。 (外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台が備え付けられ、冷蔵庫やテレビなどの電化製品や、使い慣れた家具類など利用者の希望するものが持ち込まれている。家族との写真や好きな歌手のポスターを飾ったり、利用者の好みや希望に沿いながら落ち着いて過ごすことができる空間となるように支援している。居室の床は共用部分と同じく木材を使用しており、明るく温かみのある雰囲気の居室になっている。各居室の利用者の名前を書いた表札は、廊下から見やすい向きでそれぞれの利用者の目線に合わせて掛けてあり、混乱なく居室に帰ることができるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工夫し ている	(自己評価) 一人一人の部屋の名札は廊下から見やすく、その人の視線の位置に入りやすいなど工夫している。トイレは、使用中かどうかわかるように使用していない時はドアを開けっ放しにするなど工夫している。	TI TO

(別表第1の3)

評価結果概要表

※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

【事業所概要(事業所記入)】

	E 3 Plate 1992 C 3 Plate HDP 47 Z				
	事業所番号	3893600035			
	株式会社 悠遊社				
	事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ			
所在地 喜多郡内子町本川2424-19		喜多郡内子町本川2424-19			
	自己評価作成日	平成 25年 10 月 30 日			

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

(参考項目:30.31)

(参考項目:28)

62 な支援により、安心して暮らせている

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者一人一人が自分の生活を大切にできるよう、ここの能力に応じできる事を続けてもらっています。

スタッフは共に過ごす姿勢を忘れず、寄り添って一緒に笑い喜び理念の下「もう一つの家族」と なるべくがんばっています。

地域との交流の機会を作るよう、紅葉の里まつりに地域の方々によるボランティアは年々増えてきています。地域と共に過ごせるよう、出かける機会や訪問していただける機会を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小田深山に向かう道ののどかな山々に囲まれた静かな環境にあり、開設4年目を迎えた事業所である。住民とのふれあいを大切にしながら、地域に開かれ貢献できる事業所を目指しており、積極的につながりを持つことで、地域の一員として交流を深めている。職員の知識と質の向上のために、外部研修など学べる機会を事業所が確保しており、研修内容は職員全員が把握できるようになっている。今年度は職員の異動や退職が重なったため、事業所と新人職員の業務マニュアルを管理者と職員で作成しており、日々のケアの見直しや再確認にもつながっている。利用者一人ひとりにアルバムを作成し、事業所での生活や行事の様子の写真を年々増やしていき、利用者や家族の楽しみの一つとなっている。

取り組みの成果 取り組みの成果 項目 項目 ↓該当するものに〇印 ↓該当する項目に〇印 1. ほぼ全ての家族と 1. ほぼ全ての利用者の 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ 2. 利用者の2/3くらいの \circ 2. 家族の2/3くらいと 56 を掴んでいる 63 ている 3. 利用者の1/3くらいの 3. 家族の1/3くらいと (参考項目:23.24.25) 4. ほとんどできていない 4. ほとんど掴んでいない (参考項目:9,10,19) 1. ほぼ毎日のように 1. 毎日ある 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 2. 数日に1回程度ある 2. 数日に1回程度 57 がある 64 域の人々が訪ねて来ている 3. たまにある 3. たまに (参考項目:18,38) (参考項目:2.20) 4. ほとんどない 4. ほとんどない 1. ほぼ全ての利用者が 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 1. 大いに増えている 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 2. 利用者の2/3くらいが 「係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業 2. 少しずつ増えている (参考項目:38) 3. 利用者の1/3くらいが 所の理解者や応援者が増えている 3. あまり増えていない 4. ほとんどいない (参考項目:4) 4. 全くいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての職員が 利用者は、職員が支援することで生き生きした 66 職員は、活き活きと働けている 2. 利用者の2/3くらいが 2. 職員の2/3くらいが 59 表情や姿がみられている 3. 利用者の1/3くらいが (参考項日:11.12) 3. 職員の1/3くらいが (参考項目:36,37) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての利用者が 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい |職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 2. 利用者の2/3くらいが 2. 利用者の2/3くらいが 60 る 67 足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:49) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての家族等が 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお 2. 利用者の2/3くらいが 2. 家族等の2/3くらいが 61 く過ごせている 68 おむね満足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが

4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が

4. ほとんどいない

|2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどできていない

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が 介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を 修正することはありません。

※用語について

- ●家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。 (他に「家族」に限定する項目がある)
- ●運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の 役職者(経営者と同義)。
- ●職 員=「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- ●チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、 事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名
(コニット名)グループホーム 紅葉の里・おだ
かえで記入者(管理者)
氏名稲田 かおり評価完了日25 年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

<u> </u>		一次ひクトの計画衣	【ゼル内の以行は、「Altヤー」+「Enterヤー」です】	
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ι.	理念	に基づく運営		
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理	(自己評価) 事務所内に理念を掲示し、毎日始業前に確認し理念に添ったケアを実践している。また、ご家族や訪問者にも見ていただけるように玄関にも理念を掲示し事業所の取り組みを理解してもらっている。 (外部評価) 家庭的な雰囲気の中で利用者に笑顔で自分らしい生活を続	
		念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で利用者に美顔で自分らしい生活を続けてほしいという思いで、職員間で話し合い理念を作成している。職員には入社時に理念を説明し、日頃から意識してケアを行えるように、職員一人ひとりが理念の中にある「第二のふるさと」の言葉の意味を理解し実践につなげている。	
		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りに参加し神輿や獅子舞に来てもらっている。今年も紅葉の里まつりを実施し、地域のボランティアの方より踊りや歌を披露していただき、一緒に食事をし交流を図りました。クリーンデイの奉仕活動にも参加しました。今年は地元の小学校の運動会に招いて頂き、紅葉の里祭りにも参加して頂き交流の機会が増えた。	
2	2		(外部評価) 開設して4年目の事業所であるが、行事への参加や小学校との交流、地域住民へ運営推進会議の参加の呼びかけを行うなど積極的に地域とのつながりを深めている。事業所の行事の「紅葉の里まつり」は、にぎやかな出店やボランティアの出し物などが行われ、地域住民の参加協力があり、100人規模の一大イベントとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域住民に理解を求める目標で内子グループホーム連絡協議会合同で「認知症になっても地域で楽しく暮らしたい」を合言葉に認知症研修会を開催し、たくさんの地域の方に参加していただきました。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を開催し推進委員の方の意見や要望を改善課題としている。 また、家族会、紅葉の里まつり、グループホーム対抗の運動会にも運営推進委員さんに参加して頂き、共に共有し協力体制により取り組むようにしている。	
4			(外部評価) 運営推進会議は自治会長、区長、老人会長、民生委員、町 担当者、家族、職員等の参加を得て開催している。会議で は事業所の取組みや課題について意見交換を行っている。 会議を行事と同時に開催する工夫もしており、家族や地域 住民に気軽に事業所に訪問してもらえるように努めてい る。家族や利用者に職員の名前と顔が分かりやすいように 玄関に職員の写真と名前を提示する提案など、会議の参加 者から出された意見を反映し、事業所の運営に活かしてい る。。	
		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 管理者は事業所の現状を報告したり、運営やサービスにおいて生じる課題や疑問については、事業所で抱え込まず相談しながら協力関係を築くようにしている。 内子町グループホーム連絡会にも参加していただき、行政からの話も聞ける体制となっている。 (外部評価)	
5			町担当者は運営推進会議に参加し、意見交換を行っている ほかに、日常的に連絡や相談を行い、良好な関係が構築で きている。今年度から年2回介護相談員の訪問があり、介 護相談員の手配をはじめ、地域包括支援センターと連携を 取っている。内子町グループホーム連絡会は毎月実施され ており、他の事業所と情報交換や研修などを行い交流を深 めている。	
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部で研修を受講した職員より、研修報告、勉強会を行い職員全体が身体拘束の行為を理解している。自ら外出される入所者には見守り所在の確認を行い、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
	5		(外部評価) 事業所の方針で身体拘束をしないケアに取り組んでおり、 玄関は手動式で日中は開放している。落ち着きがなく何度 も外出しようとする利用者には、職員が付き添い声かけや 見守りを行うことで安心できるように努めている。少なく とも年1回は身体拘束の研修を開催し、職員全員が言葉の 拘束を含めた身体拘束となる行為と弊害について理解がで きるように取り組んでいる。	

	又次 1 世来の王 85 C			
自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業 所内での虐待が見過ごされることがないよ う注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修に参加したり、社内での勉強会を行い正し く理解し虐待のないケアを行っている。日常的な介護サー ビスでの適切な対応のあり方を折に触れ話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それら を活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見制度を利用されている方はいないが、勉強会を持っていつでも対応できるようにしている。 また、地域で行われる研修会にも職員が交互に参加して認識を高めるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約においては事業所の取り組みや介護サービスに対して 状況考え方などを説明している。その際、不安に思ってい ることをお聞きし理解、納得をしていただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員並びに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には面会時や電話等で意見や要望を聞くようにしている。気軽に意見や苦情を出していただけるように、玄関に意見箱を設置している。また、行事に参加して頂き気兼ねなく意見を言える雰囲気を作っている。 (外部評価) 訪問時に職員から家族に声をかけ、意見や要望を言いやすいように努めている。毎月紅葉だよりと利用者の写真に手紙を添えて送付しており、遠方等でなかなか訪問できない家族にも状況を伝えている。年1回の家族会のほか、事業所のもちつき行事にも参加してもらい家族間の交流も深めている。	

自己	外部		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
評価	評価	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		(外部評価のみ)	
		○海岸に開する隣号会員の反映	(自己評価) 毎日のミーティング、職員会議、勉強会等で意見や提案、 又気づいたことを発言できるようにしている。 管理者は職員の意見や要望を聞き、良いものは運営に反映 している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(外部評価) 毎月のミーティングなど、職員は管理者に意見や要望を伝えることができる。日頃から管理者は現場にいることもあり、職員が思ったことを伝えやすい環境づくりをしている。会社全体の取組みで、職員の声を会社の代表や幹部職員に直接届ける社内アンケートを実施しており、職員の	管理者は研修会に参加し職員の評価の仕方等を学んでおり、個人面談の必要性を感じているため、個人面談等を通して職員一人ひとりの目標の達成状況や課題を明確にしながら、より良いサービスの向上につなげていくことを期待したい。	
			様々な意見を把握し運営に反映することができるよう努め ている。	VIX C 2 2 791N U/CV .	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 会社は4つの方針(顧客本位・社員重視・独自能力・社会 貢献)を打ち出し職場環境が整える努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 全ての職員が研修に参加できるよう予定し、本人が希望する研修には参加してもらっている。また、事業所内でも研修予定を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 内子町グループホーム連絡会に毎月参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質向上に努めている。		
I	Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するため の関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前において事前調査で本人の住まいの状況や困っていることなど十分に把握し、また事業所にも見学に来ていただき十分に納得して入居していただけるよう努めている。センター方式のアセスメントを活用し本人の要望等を理解し安心して生活出来るよう努めている。		

	機			
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前にご家族の思いや考え家族の状況を把握すると共に、家族のニーズを総合的に把握しながら詳しくアセスメントが出来るよう家族にも協力してもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 相談時に入居のみを前提にするのでなく担当のケアマネジャー及びサービス担当者等と話し合いながら、どのようなサービスが適しているか見極め対応するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 一人一人の好きなことや嫌いなことを記録し意向を確認しながら日常生活を送れるように工夫している。また、一人一人の不安や苦しみは共感し分かち合える関係作りを行っている。洗濯物たたみやシーツ交換、調理等一緒に作業を行い冗談を言って笑える関係でいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族会行事での情報交換を行い家族の意向や考え に注意を払いながら共に本人を支えていく姿勢をとってい る。毎月のお便りには、日頃の生活の出来事や写真も印刷 して伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 全ての方ではないが以前からの理容師さんが訪問して散髪をしてもらったり、地域の行事や祭りに行ったりして昔馴染みの友人や近隣の方と交流が持てるようにしている。手紙の返事を書いて出すなどの支援に努めている。 (外部評価) 事業所の近くにある友人の家や昔からの行きつけの商店に出かけたり、手紙のやり取りなど馴染みの場所や人間関係が途切れないように支援している。以前住んでいた地域の灯篭祭りに出かけ昔の知人と話したり、今までの馴染みの関係を継続できる機会を積極的に作っている。	

	- 版宗・紅朱の王・837c				
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え 合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係や親密度を把握し、毎日笑顔で過ごしていただけるよう職員が仲介しています。 入居者同士の関係が円滑になり、またそれぞれの個性が発揮できるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後も継続してその家族さんに来所していただ くよう声掛けを行っている。		
1	I. そ	の人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ	ジメント		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査等で情報を収集し今までの暮らしぶりを把握するように努めている。また、暮らしを共にする中での気付きや思考についての情報は少しずつ積み重ねておいて明らかになることも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活のリズムを理解し日々の生活の中での出来事や出来ないこと等観察しながら本人の可能性を決め付けないで柔軟な視点で把握するように努めている。		

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の介護の積み重ねと本人、家族の思いや意向、気づきやアイディア等を反映し介護計画を作成している。モニタリングを毎日夜勤帯で行い見直しは6ヶ月ごとに行っており状態に変化が合った場合は随時行っている。 (外部評価) 1階のユニットは管理者が、2階のユニットは計画作成担当者が利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成している。利用者毎の担当職員が毎月モニタリングを行っている。利用者一人ひとりの毎日の介護記録を介護計画と連動して記入できるよう工夫しており、職員が常に介護計画を意識してケアに取り組めるように努めている。利用者の状態に変化があった場合などは、随時見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の介護記録により、その日勤務していなっかた職員にも解るよう毎日の状況等情報を共有できるようにしている。 介護サービスに沿ってケアを実践し、毎日評価を行い介護計画の見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々に生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族の状況に応じて受診など柔軟な支援を行っている。家族と受診結果の状況報告をして情報を共有している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 入所者が穏やかな暮らしが送れるよう地域の民生員、ボランティアの協力を得て交流を図っている。 毎月地域のボランティアの方が来所して紙芝居等読み聞かせの会の方が来ていただいている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人ご家族の希望するかかりつけの医療機関にて継続した治療が受けれるようご家族と相談しながら受診介助をしたり、また家族が付き添ったりして通院治療を行っている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することができる。主に管理者が利用者の受診介助を行い、必要時には家族も同行している。受診内容は介護記録に記入し職員全員で共有するようにしている。協力医の往診や週に1回看護師が訪問し、利用者の様子を把握して健康管理をしており、緊急時に適切な対応がとれるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 管理者が看護師であるため利用者の日常的な身体状況において詳細な観察による健康管理や一般状態の変化に応じて主治医と気軽に相談ができる。 また、週に1回訪問看護ステーションから看護師が健康管理に来てくれる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 早期に退院できるよう、病院関係者との情報を行い、退院 前には管理者、責任者、看護師での病院関係者と話し合い をしている。	
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	協力のもと1名の看取りを経験したことがある。重度化や	今後、看取り支援の希望が出た場合には、安心して終 末期が迎えられるように医師や看護師、職員との協力 体制を築きながら、職員の知識向上や看取り支援を行 う上での不安を解消できるように、継続して研修や勉 強会を開催することを期待したい。

52.7%	~ / \	<u> </u>		十成20年1月6日
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全て の職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地域の消防署の協力を得て定期的に救命救急の訓練を受け 実践力を身に付けている。事業所にADEも設置している ため、使用に関する訓練も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	(自己評価) 地域の消防隊の協力により年2回避難訓練を行い、前回消防より指摘を受けたこと、それを元に防災マニュアルを作成し訓練を行っている。地区の防災訓練にも参加し、近隣のボランティアの方も参加して訓練を行った。 (外部評価) 内子町の地区防災訓練を、事業所を利用して地域住民と一緒に実施している。訓練では2階の利用者の避難誘導の方法など職員同士で実践し、課題や反省点を話し合っている。地域住民が負担に感じないような具体的な役割を決めるなど、災害時の協力体制が構築されている。備蓄品や非常用品を用意している。また、事業所を地域の避難場所として利用できることも町や地域に提案している。	
I	7. そ	ー ・の人らしい暮らしを続けるための日々の支持		L
36		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライ バシーを損ねない言葉かけや対応をしてい る	(自己評価) 入所者の人格や尊厳やプライバシーについて、研修を受け日常の介護時の声掛けに十分に注意を払い、排泄や入浴など介助においては、自尊心を傷つけないように注意を払いながら介助を行っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、日常のあらゆる場面で尊厳を傷つけないように、自己決定しやすい丁寧な声かけやケアを行っている。排泄や入浴介助時などは、特に利用者の羞恥心に配慮してさりげない声かけや対応を行っている。職員は利用者に親しみを込めながらも、過度な馴れ合いの言葉づかいにならないように注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人一人の希望や好みを把握し、表情や反応を感じ 取りながら日常生活の中で自己決定ができるような声掛け 支援を行っている。	

	大阪大・仙来の主・1372				
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している	(自己評価) 入居者一人ひとりのペースや体調に合わせてその日に状態等を見て起床時間、食事の時間等をずらしたり個々のペースに合わせて過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができ るように支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣に合わせて朝の着替えや化粧品の利用などを見守り不自由なところはさりげなく声掛けしなおして頂いたり、また毛染めによるおしゃれを楽しんでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節ごとの旬の食材を使って季節感や食べ慣れた料理などで話題を提供したり楽しく食事をする工夫をしている。月2回は、行事などで利用者と職員が共に食卓を囲んで楽しい雰囲気で食事を行ったり、外食の機会を持っている。誕生日には好きなものをリクエストしてもらい食べてもらっている。晩酌を楽しみにされている方には夕食時に提供している。 (外部評価) 食材を切ったり下ごしらえをしたりするなど、利用者同士がテーブルを囲んで和やかに行っている。献立は管理者が旬の食材を活かしたメニューを考え、利用者の希望も取り入れて職員が調理している。地域祭りの時には郷土料理のうどんを利用者と作り、食べることが楽しみになるような工夫をしている。毎日の献立を「紅葉だより」に掲載しており、家族も確認することができる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分摂取量を観察記録している。水分量食事量の少ない方はご自分の急須と湯のみで好みのお茶を入れ飲んでもえらっている。一人ひとりの状況を把握し、体重の増加や減少に気を配り高カロリー食やお茶ゼリー等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けしたり誘導している。十分でない所は介助を している。また個人にあったさまざまなブラシを準備して いる。義歯は夜間にポリデント消毒して清潔に心がけてい る。		

	と数字、性条の主・83に				
自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを記録にて把握している。尿意のない人にはされげなく声掛け誘導してトイレで気持ちよく排泄ができるよう支援している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、その日の体調や状態に配慮しながら、トイレ誘導を行っている。オムツやパット類に頼りすぎず、できるだけ利用者の残存機能を活かしてトイレで気持ち良く排泄してもらうことを大切に考えて支援している。入居時にオムツを使用していた利用者が、排泄パターンに沿ったトイレ誘導を行うことでオムツからパットの使用になった事例があり、最終的には布		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品や繊維の多い食材を献立に取り入れたり、排便の状況に合わせてセンナ茶の濃度を変えて飲んでもらって個々に応じた取り組みをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じ た入浴の支援をしている	(自己評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく 眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状況を一人ひとり把握し、日中は散歩や作業など取り入れ活動量を増やし夜間安眠できるよう促している。その日の体調や表情から疲れ具合をみて、休息していただいている。		

		1-21-2		
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服 薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の内服状況がわかるよう説明書を個別でファイルして共有している。また、内服薬の変更時は申し送りノートにて共有できるようにしている。内服治療に対する説明を勉強会を開き管理者より説明を受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている	(自己評価) 毎日の調理や洗濯物干し、また歩けない方には洗濯物たたみや編み物等々一人一人得意なことをしていただいている。男性には買い物時の荷物持ちをしていただいたりと色々工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外 に出かけられるよう支援に努めている。ま た、普段は行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の人々と協力 しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望にそって出来るだけ散歩や買い物、日光浴など行い戸外にて気分転換を図り生活に楽しみが持てるよう支援にしている。季節ごとの花や紅葉見物に出かけたりして気分転換を図り生活に楽しみを持っていただいている。 (外部評価) 日頃から事業所の周辺を散歩したり、利用者の希望で近くの商店まで買い物に行くなど外出をしている。季節に合わせて、車いすの利用者も一緒に花見や会食に出かけられるよう支援しており、利用者は楽しみにしている。事業所は自然豊かでのどかな環境にあり、外に出るだけで見慣れた山々の風景を眺めながら気分転換をすることができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを 理解しており、一人ひとりの希望や力に応 じて、お金を所持したり使えるように支援 している	(自己評価) 本人の意向によりお金を所持している方もいる。また、家族よりお金を預かっている方も買い物時一緒に準備してお金を支払いができるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をした り、手紙のやり取りができるように支援を している	(自己評価) いつでも電話を掛けたいと訴えた際には対応し、手紙や年 賀状のやり取りもできるよう支援している。 自らかけれない方には電話をかける代行をしたり、個人の 有する能力に応じた対応をしている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって 不快や混乱をまねくような刺激(音、光、 色、広さ、温度など)がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室、ホールに湿度・温度計を設置、冬場は加湿器等で居心地よく過ごせるよう配慮している。ホールの天窓の下は日当たりもよく冬場は入所者さんの憩いの場となっている。夏場は日差しが強いのですだれなどで工夫している。 (外部評価) 大きな窓から太陽光が入り、床や壁などに木材を使用しているため、全体的に明るく温かみのある雰囲気になっている。リビングにはゆったりと座れるソファや畳のスペースがあり、利用者は思い思いの場所でゆっくりとくつろぐことができる。1階と2階のユニット毎の利用者の様子に合わせて、リビングの配置を変えたり、季節によって暑くなりすぎないようにすだれなどを使用する工夫をするなど、温度や湿度にも配慮しながら利用者が居心地良く過ごすことができるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせるよ うな居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールの窓際は日当たりがよく思い思い日向ぼっこや気の合った入所者さん同士が会話を楽しまれたりと一人ひとりの居場所ができている。	
54		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族 と相談しながら、使い慣れたものや好みの ものを活かして、本人が居心地よく過ごせ るような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使い慣れている布団や家具などを持ってきて頂き居心地の良い居場所作り心がけている。また、思い出深い出来事の写真やそれぞれの馴染みのもので落ち着いて過ごせるように工夫している。 (外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台が備え付けられ、冷蔵庫やテレビなどの電化製品や、使い慣れた家具類など利用者の希望するものが持ち込まれている。家族との写真や好いな歌手のポスターを飾ったり、利用者の好みや希望に沿ったり、利用者の好みや希望に沿ったりできる空間となるように支援している。居室の床は共用部分と同じく木材を使用しており、明るく温かみのある雰囲気の居室になっている。各居室の利用者の名前を書いた表札は、廊下から見やすいらまでそれぞれの利用者の目線に合わせて掛けてあり、混乱なく居室に帰ることができるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工夫し ている	(自己評価) 各居室の入り口に名札を背の高さにあわせて付けまた目の 不自由な方や字の読めない方の居室には、飾りや目印をつ けるなどの工夫をしている。	